
観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	家畜栄養			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	講義	
ディプロマポリシー	実践的な技術・知識			時間数	15 時間	
担当者名	木本結貴			単位数	1 単位	
科目の概要	(1) 家畜の飼料の消化・吸収の仕組みの理解 (2) 飼料の種類と特性の学修 (3) 飼養標準に基づく給与飼料の設計計算の学修 ※15時間のうち3時間は家畜人工授精師養成講習会で実施					
身に付ける力	(1) 家畜の体の維持、生産性向上に必要な飼料の知識 (2) 家畜の体に過不足のない飼料給与量を計算する技術					
到達目標	(1) 家畜の養分の分解・吸収を理解する。 (2) 家畜の体の維持、生産性向上に必要な栄養の量を理解する。 (3) 乳用牛及び肉用牛の飼料給与量を計算し、給与プログラムを作成する。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	反芻胃の仕組み		2	木本結貴	
	2	炭水化物の消化・吸収		2	木本結貴	
	3	タンパク質の消化・吸収		2	木本結貴	
	4	脂質、ビタミン等の消化・吸収		2	木本結貴	
	5	粗飼料、濃厚飼料の特性と栄養価		2	木本結貴	
	6	家畜の養分要求量		2	木本結貴	
	7	飼料の給与量の計算、飼料設計		2	木本結貴	
	8	定期考査		1	木本結貴	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材	家畜人工授精講習会テキスト					
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査	知・技	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	家畜育種			開講時期	1年生 後期	
				授業の形態	講義	
ディプロマポリシー	実践的な技術・知識			時間数	15 時間	
担当者名	石川豊			単位数	1 単位	
科目の概要	(1)家畜の形質の遺伝を理解し、牛群の能力向上のための交配計画の作成 (2)家畜の検定や登録の仕組み等、能力評価方法の理解 ※15時間のうち8時間は家畜人工授精師養成講習会で実施					
身に付ける力	牛群の能力の評価と向上に必要な知識					
到達目標	(1)家畜の形質の遺伝を理解し、後継牛の能力向上を図ることができる。 (2)家畜の能力に応じて選抜・淘汰を行い、交配計画を作成することができる。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	遺伝の原理(遺伝子の構造と機能)		2	石川豊	
	2	遺伝子の原理		4	石川豊	
	3	家畜の主要形質の遺伝		2	石川豊	
	4	家畜の選抜、交配の方法		2	石川豊	
	5	家畜の能力検定、登録		2	石川豊	
	6	新しい家畜育種技術		2	石川豊	
	7	定期考査		1	石川豊	
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材	家畜人工授精講習会テキスト					
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査	知・技	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	家畜生理・繁殖(講義)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	講義	
ディプロマポリシー	実践的な技術・知識			時間数	45 時間	
担当者名	木本結貴、石川豊、上野優太、畜産技術部			単位数	3 単位	
科目の概要	(1)牛の人工授精を行うための知識や技術の習得 (2)人工授精を実践して技術を習得 ※45時間全てを家畜人工授精師養成講習会で実施					
身に付ける力	牛の性周期を判断し、人工授精で受胎させる技術					
到達目標	(1)牛の人工授精に必要な基礎的な知識を理解し、性周期が分かる。 (2)牛の発情鑑定及び人工授精が実践できる。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	繁殖生理(学科)		13	木本結貴	
	2	生殖器解剖(学科)		5	石川豊	
	3	精子生理(学科)		7	木本結貴	
	4	種付けの理論(学科)		4	上野優太	
	5	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存(学科)		15	畜産技術部	
	6	定期考査		1	木本結貴、石川豊、 上野優太、畜産技術部	
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材	家畜人工授精講習会テキスト					
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査	知・技	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	家畜生理・繁殖(演習)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	演習	
ディプロマポリシー	実践的な技術・知識			時間数	60 時間	
担当者名	石川豊、大元義彦、畜産技術部			単位数	3 単位	
科目の概要	(1)牛の人工授精を行うための知識や技術の習得 (2)人工授精を実践して技術を習得 ※60時間全てを家畜人工授精師養成講習会で実施					
身に付ける力	牛の性周期を判断し、人工授精で受胎させる技術					
到達目標	(1)牛の人工授精に必要な基礎的な知識を理解し、性周期が分かる。 (2)牛の発情鑑定及び人工授精が実践できる。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	生殖器解剖(実習)		4	石川豊	
	2	家畜の審査(実習)		7	大元義彦	
	3	精液精子検査方法(実習)		8	畜産技術部	
	4	発情鑑定(実習)		6	畜産技術部	
	5	家畜人工授精及び家畜人工授精用精液の保存(実習)		34	畜産技術部	
	6	定期考査		1	畜産技術部、石川豊	
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材	家畜人工授精講習会テキスト					
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査	知・技	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理(講義)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	講義	
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術			時間数	30 時間	
担当者名	上野優太、田邊真之、石川豊			単位数	2 単位	
科目の概要	(1)牛の飼養管理と搾乳に関する知識や技術の学修 (2)飼料作物の栽培や放牧草地の管理に関する知識や技術の学修 (3)農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取組や管理の違いの理解 (4)研修会等で新たな知見の習得					
身に付ける力	牛の飼養管理と搾乳並びに飼料の自給に関する知識と技術					
到達目標	(1)牛の飼養管理と搾乳ができる。 (2)飼料作物の栽培・収穫・調整や放牧草地の管理ができる。 (3)県内の先進農家の取組や畜産関係機関の役割を理解する。 (4)研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	家畜飼養の基礎知識、体測の意義と方法		2	上野優太、田邊真之	
	2	乳用牛の飼養管理各論		6	田邊真之	
	3	肉用牛の飼養管理各論		6	上野優太	
	4	飼料作物の栽培各論		14	石川豊	
	5	定期考査		2	上野優太、田邊真之、石川豊	
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査	知・技、思・判・表	80	実技テスト		
	レポート			発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	20	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理(演習、酪農)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	演習	
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術			時間数	180 時間	
担当者名	木本結貴、石川豊、大元義彦、上野優太、田邊真之、畜産技術部、外部講師			単位数	9 単位	
科目の概要	(1)乳用牛の飼養管理と搾乳の実践を通じた生産管理技術の習得 (2)飼料作物の栽培や放牧草地の管理等の習得 (3)農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取組や管理の違いの理解 (4)研修会等で新たな知見の習得					
身に付ける力	乳用牛の飼養管理と搾乳並びに飼料の自給に関する知識と技術					
到達目標	(1)乳用牛の飼養管理と搾乳ができる。 (2)飼料作物の栽培・収穫・調整や放牧草地の管理ができる。 (3)県内の先進農家の取組や畜産関係機関の役割を理解する。 (4)研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	乳用牛の飼養管理と搾乳		140	木本結貴、外部講師	
	2	肉用牛の飼養管理		10	上野優太、田邊真之、石川豊	
	3	飼料作物の栽培		10	石川豊、畜産技術部	
	4	放牧草地の管理、未利用資源の活用		10	木本結貴、石川豊	
	5	視察研修		10	木本結貴、大元義彦	
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査			実技テスト		
	レポート	知・技、思・判・表	50	発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	50	研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	畜産飼養管理(演習、肉用牛)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	演習	
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術			時間数	180 時間	
担当者名	上野優太、田邊真之、石川豊、大元義彦、木本結貴、畜産技術部、外部講師			単位数	9 単位	
科目の概要	(1)肉用牛の飼養管理の実践を通じた生産管理技術の習得 (2)飼料作物の栽培や放牧草地の管理等の習得 (3)農家及び畜産関係機関等を視察し、先進的な取組や管理の違いの理解 (4)研修会等で新たな知見の習得					
身に付ける力	肉用牛の飼養管理並びに飼料の自給に関する知識と技術					
到達目標	(1)肉用牛の飼養管理ができる。 (2)飼料作物の栽培・収穫・調整や放牧草地の管理ができる。 (3)県内の先進農家の取組や畜産関係機関の役割を理解する。 (4)研修会等で得られた知識等を飼養管理に活用する。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	肉用牛の飼養管理		140	上野優太、田邊真之、石川豊、外部講師	
	2	乳用牛の飼養管理と搾乳		10	木本結貴	
	3	飼料作物の栽培		10	大元義彦、畜産技術部	
	4	放牧草地の管理、未利用資源の活用		10	上野優太、田邊真之、石川豊	
	5	視察研修		10	上野優太、田邊真之、石川豊	
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査			実技テスト		
	レポート	知・技、思・判・表	50	発表・成果物		
	授業・実習態度	思・判・表、態	50	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度

科目名	生産プロジェクト実習(酪農)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	実習	
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術			時間数	630 時間	
担当者名	木本結貴、大元義彦			単位数	21 単位	
科目の概要	飼養管理技術や生産性の向上を図ることを目的に、日々の飼養管理を通じて課題を見つけ、対策を計画、実践し、資料にまとめて発表を行う。					
身に付ける力	課題を見つけて対策を検討し、効果の検証を行う技術					
到達目標	(1)生産目標を設定できる。 (2)課題を抽出できる。 (3)対策の検討と検証ができる。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	生産プロジェクト課題の設定		4	木本結貴、大元義彦	
	2	設計書及び中間報告書の作成		6	木本結貴、大元義彦	
	3	生産プロジェクト実習		600	木本結貴、大元義彦	
	4	生産プロジェクトの取りまとめ		20	木本結貴、大元義彦	
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査			実技テスト	知・技・思・判・表	60
	レポート			発表・成果物	思・判・表	10
	授業・実習態度	思・判・表、態	30	研修評価		

観点：「知・技」…知識・技能、「思・判・表」…思考・判断・表現、「態」…主体的に取り組む態度

科目名	生産プロジェクト実習(肉用牛)			開講時期	1年生 通年	
				授業の形態	実習	
ディプロマポリシー	実践的な知識・技術			時間数	630 時間	
担当者名	田邊真之、石川豊、上野優太			単位数	21 単位	
科目の概要	飼養管理技術や生産性の向上を図ることを目的に、日々の飼養管理を通じて課題を見つけ、対策を計画、実践し、資料にまとめて発表を行う。					
身に付ける力	課題を見つけて対策を検討し、効果の検証を行う技術					
到達目標	(1)生産目標を設定できる。 (2)課題を抽出できる。 (3)対策の検討と検証ができる。					
授業計画	授業内容・方法			時間数	講師	
	1	生産プロジェクト課題の設定		4	田邊真之、石川豊、上野優太	
	2	設計書及び中間報告書の作成		6	田邊真之、石川豊、上野優太	
	3	生産プロジェクト実習		600	田邊真之、石川豊、上野優太	
	4	生産プロジェクトの取りまとめ		20	田邊真之、石川豊、上野優太	
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
テキスト・副教材						
評価方法	評価方法	観点	割合	評価方法	観点	割合
	定期考査			実技テスト	知・技、思・判・表	60
	レポート			発表・成果物	思・判・表	10
	授業・実習態度	思・判・表、態	30	研修評価		

観点：「知・技」・・・知識・技能、「思・判・表」・・・思考・判断・表現、「態」・・・主体的に取り組む態度